

私が思うナンバーワンスポットは、美里町にある「お池さん」という小さな池だ。美里町には祖父母が住んでおり、幼少期からこの池に散歩で訪れていた。

お池さんの水は湧水であり、夏でもひんやりとしている。また、底の砂が一粒一粒見えるほどよく透き透っているのも特徴だ。そんな水が美里町の大地を潤している。特に、田んぼの水はお米を作るための礎だ。ここで作られたお米は、もちもちとした食感でそれぞ

れの粒が白く光り輝いている。「噛めば噛むほど甘くなる」という言葉があるが、まさにこのことだと思った。お米以外にも、多種多様な生物がすんでいる。メダカやヤマメ、耳をすませば蛙や蟬の声が近くで聞こえてくるときもある。他にも、夜の間には猿や鹿、猪などが下りてきたという話もかなり聞く。お池さんは人もそれ以外の生物も支えているのだ。しかし、問題点もある。その最たる例が少子高齢化だ。池や周りの木々を管理するため

にはどうしても人手がいるが、高齢化がかなり進むこの地域ではなかなか難しい。それに、お池さん自体も昔からあるため、大きな木やつたがからみついて重くなった木もある。だからこそ台風などで枝が折れてしまったり片づけるのは一苦勞である。正直、今までは少子高齢化と聞いても介護や税金の問題ばかりが頭にうかんでいたが、実際に人手が足りていない様子を見て初めて自分ごとのように感じた。

「お池さん」という呼び名からも分かるようにこの池は地域の人からも大切にされてきた。年に一度みんなで掃除をしたり、池の周りの木々にしめ縄があるのもその心の表れだと思う。それに、お池さんではどんなに強い風が吹いても次の日には道に葉も枝も一つも落ちていない。誰かが早朝から掃いていくれるのだ。そんな心を私も見習いたい。私の一番好きな場所を守るためにも、今できる小さなことをコツコツと積み上げていきたい。